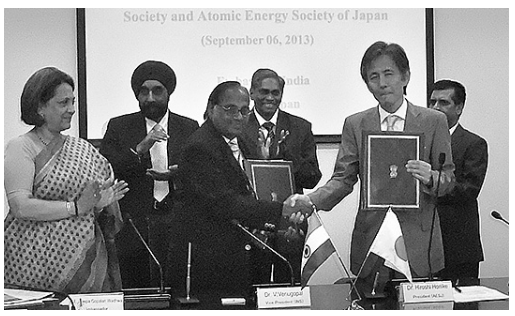
日印原子力学会

協力覚書の調印式挙行

独自の学術資産に期待

日本とインドの原子力学会による協力覚書の調印式が六日、インド大使館で行われた（‖写真）。



式には、ディーパ・ゴパラン・ワドゥワ・インド大使も同席し、覚書を契機として今後、両国ともに、原子力研究開発や人材交流など、幅広い分野での協力が促進することを期待した。

日本原子力学会では、これまでも、米国、英国、フランス、中国、カナダ、韓国、豪州などと協力覚書を結んでいるが、インドに対しては、トリウム炉やインド型高速増殖炉など、独自の原子力技術に学ぶべき学術資産が多いことから、協力関係構築に向けて、働きかけを行ってきた。

福島産の水「安全できれい」

米議員団、首相表敬

キアステン・ジリブランド米国上院議員、メイジー・ヒロノ米上院議員、ダン・ベニシェク下院議員、テリ・スーウェル下院議員、グレース・メン下院議員ら一行は三日、安倍晋三首相を表敬訪問した。

議員団が、首相より、飲んでいるミネラルウォーターが福島県産だと聞くと、ジリブランド上院議員らから「素晴らしい、大変安全できれいな水である」と返答する場面があった。

議員らは、米国にとって日米同盟は極めて重要であるとし、北朝鮮に係る様々な問題について日米が連携し、また日米韓でも緊密に連携して取り組んでいくべきであると述べた。

除染・廃棄物処理で展示会開催

環境新聞社

環境新聞社は二十五～二十七日、東京・千代田区の科学技術館で、環境放射能除染・廃棄物処理国際展「RADIEX2013」を開催する。除染活動に伴い発生する土壌や廃棄物の処理・処分に関する国内外の技術、機器、用具等を一堂に紹介する除染専門の展示会だ。会場内は、「測定／分析」、「除染技術」、「廃棄物」、「総合」、「パブリック」の五つのゾーンに分かれている。

また、会期中の各日ごとの併催フォーラムとして、自治体とのパネルディスカッション、技術プレゼンテーション、海外企業によるプレゼンテーションも行われる。

開催概要、併催フォーラムの申込みは、公式ウェッブサイト（http://www.radiex.jp/）参照。

高度先進がん医療実践

埼玉県　年末に新病院を開設

埼玉県の上田清司知事は、三日の記者会見で、「高度先進がん医療を実践」、「日本一患者と家族にやさしい」などと銘打つ県立がんセンター新病院の建物（‖写真）がこのほど完成し、一三年末にも開院する運びと発表した。

伊奈町に建設される新病院は、小さながんも見逃さないPET－CTや、遺伝子検査で、患者に最も適した治療法を決定する「パーソナル医療」を提供するほか、高度先進がん医療を実践する病院を目指すことから、がんを狙い撃つ高精度放射線治療装置、身体的負担の少ない内視鏡手術支援ロボットを新規導入、医療スタッフも前倒しで確保し、診断・治療機能の強化を図ることとしている。

また、「ホスピタルストリート」と呼ばれる二層吹き抜けの大空間や、家族団らんスペース「コミュニティラウンジ」を設け、建材にも自然素材を使用し落ち着きある空間を醸し出すなど、アメニティに工夫した作りとなっているほか、病院ボランティアによる「心のケア」にも配慮がなされている。

加えて、非常用発電機や飲料用の井戸水浄化設備で、災害後三日間の自立機能を確保しているほか、LED照明、遮熱ガラス、太陽光発電などの導入により、従来の約四〇%の省エネ効果を発揮する。

新病院は、地上十一階、地下一階、延べ面積約六万二千平方㍍、駐車台数六百三十八台で、八月末に本館工事を完了した。

今後は、十月二十五日に植樹式典、十一月二十四日に記念講演（聖路加国際病院・日野原重明氏）、同三十日に完成記念式典を開催し、十二月三十日にオープン、年明け一月六日より外来診療を開始する予定となっている。

上田知事は、「高度な治療を行い、なおかつ患者や家族に優しい、そしてエネルギーに対しても優しい」と、新病院の特長を強調し、ローリングをうまく行い、より多くの人たちに高度な医療を提供するようにしたいなどと期待をかけている。

原子力技術他、多くの可能性を

日立　リトアニアのエネ公社と協業へ

日立製作所は五日、リトアニアのエネルギー全般を管轄するリトヴォス・エネルギア（公社）と、同国エネルギー分野の包括的な協業について、検討を開始することに合意したと発表した。

今回の合意を受け、日立の田中幸二副社長（電力・インフラシステム事業担当）は、「日立が提案している最先端の原子力技術に加えて、バルト地区で広く貢献ができる機会があれば日立グループの有するノウハウや革新的な技術で協力していきたい」などと述べている。

日立は、中東欧を注力地域の一つとして位置付けており、同社欧州地域の統括会社の日立ヨーロッパは二二年四月に、リトアニア事務所を設立している。今後は、これと連携して、リトアニアを含めたバルト三国の発展に貢献しうる幅広い分野にわたる事業の可能性を検討していくこととしている。

汚染水対策で米専門家招へい

東京電力

東京電力は十日、八月に社長直轄の組織として設置した汚染水・タンク対策本部に、米国の原子力規制委員会でTMI事故の収束に関わった経験のあるレイク・バレット氏を社外専門家として招へいすることを決めた。

同氏は、廃炉技術に関する国際的知見・経験等を踏まえ、対策本部や各プロジェクトチームに指導・助言を行う。

核燃料施設で新基準案まとめ

規制委

原子力規制委員会は十一日、核燃料加工施設や再処理施設などの新規制基準について、関連する規程類の条文案を取りまとめた。今後、十二月中旬の施行を目指し、意見公募が行われる。

原子力発電所に関する新規制基準は既に、七月より施行され、現在、事業者が再稼働を見込むプラントについて、適合性審査が進められているが、他の再処理施設、核燃料加工施設、試験研究炉、使用済み燃料貯蔵施設、廃棄物埋設施設、廃棄物管理施設、核燃料物質使用施設に関しても、四月より、基準策定の検討が専門家チームで行われてきた。核燃料加工施設と再処理施設には、発電所と同様、重大事故対策も新たに要求されることとなる。

スペイン原子力規制セミナー

10月3日に開催

スペインのラホイ首相の初来日を機に、十月三日、ホテルオークラ東京で、「スペイン原子力セミナー」が開催される。

今回のセミナーでは、スペイン原子力安全委員長のフェルナンド・マルティ・シャファウセン氏他より、同国の原子力安全規制の特徴や、使用済み燃料の貯蔵、運搬など、事例を交えて紹介する。

申込みは、スペイン大使館経済商務部ウェッブサイト（http://www.spainbusiness.jp）を参照。問合せは、事務局（電話03－5770－3953）まで。

カザフ原子力でミニプレゼン

27日に開催

カザフスタンの原子力政策・産業に関する情報を提供する「ミニプレゼンテーション」が二十七日、東京・中央区の証券会館で開催される。カザフスタン原子力委員会、国営原子力会社カザトムプロムからの発表を受け、参加者との質疑応答を行い、関連産業の人材育成支援につなげる。

逐語通訳付きで、参加費無料、定員三十名。問合せは、ロシアNIS貿易会経済研究所（電話03－3551－6218、Eメールcentral-asia@rotobo.or.jp）まで。

人類存続「極めて不安」

環境危機時計　今年の時刻が発表

旭硝子財団は五日、第二十二回「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」の調査結果で、環境悪化による人類存続の危機時刻を示す「環境危機時計」の今年の時刻は「極めて不安」な領域である九時十九分であると発表し、九時二十三分を示した昨年とほぼ変わらない結果となった。

「環境危機時計」とは、地球環境悪化への危機感を、零時～十二時の時刻に置き換えて時計表示するもので、零時～三時が「ほとんど不安はない」、三時～六時が「少し不安」、六時～九時が「かなり不安」、九時～十二時が「極めて不安」を表している。

危機時刻を決める地球環境状況としては、二〇%が「気候変動」を選択し、「環境汚染（一四%）」、「水資源（一二%）」が続いた。環境負荷軽減のために行政機関に望む措置や対策としては、「規制や基準」が最多数の三六%を占め、次に「インフラの改善（二七%）」が続いた。今後の都市人口の増加を背景とする世界都市部の環境問題への対処の仕方については、「途上地域の実情に沿った解決」が二五%で最多数を占めた。

展示会に2万人来場

産学連携　イノベーション・ジャパン

大学等が研究成果を展示して産学連携の機会を図る「イノベーション・ジャパン二〇一三――大学見本市&ビジネスマッチング」が、八月二十九日と三十日の二日間、東京ビッグサイトで開催され、二万千十人が来場した。

筑波大学では、放射線医学総合研究所、千代田テクノルなどが開発した「帽子型頭頸部医療放射線被ばく線量記録装置『RADIREC』」（‖写真）を紹介し、企業とのタイアップをねらった。この装置は、放射線治療で、曲面の多い頭頸部に行う際にも線量計と一体となった帽子を被ることで精密な被ばく量の線量分布図が作成できる。

信州大学では、「天地返しに木炭層を組み込む裸地面放射線量低減工法」をいわき市での試験施工の様子とともに紹介し、剥ぎ取って下層土と置き換えた表土をさらに放射性物質の保持と移動抑制効果のある木炭層を挟み込むことにより、汚染土周囲への放射性物質の広がりを抑えられると説明。同学の鈴木純教授は、「会場で福島県の研究者とも議論を交わすことができた」とし、さらに発展させるアイディアも聞くことができたと話している。

「なすびのギモン」除染活動レポ

福島放送、ウェッブも

お笑いタレントのなすびが、原子力被災地の除染活動や放射線影響について、現地レポートを行うテレビ番組「なすびのギモン」が、福島放送で毎週土曜日の夕方に放送されている。全国ネットではないが、これまでの放送内容は、番組ウェッブサイト「http://nasubinogimon.jp/」でも見ることができる。

福島県出身のなすびは、「ボクにとって決して他人事ではない。正面切ってそれらに立ち向かっていく」と意気込み、除染活動で生じた土の仮置場や排水処理など、福島で暮らしていくための必要な知識として、視聴者からのリクエストも受け付ける「ギモン」に対し、わかりやすくレポート解説してくれる。